

みんなできいっしょに大作戦

半田市市民協働推進計画



半田市観光
マスコットキャラクター
「だし丸くん」

新美南古童話
イメージキャラクター
「こん吉くん」

【改訂版】

平成29年7月
半田市



はじめに

近年、社会を取り巻く状況が急激に変化し、地域が抱える課題も以前とは比較にならないほど多様化し、複雑さを増してきています。誰もが求める豊かで幸せな暮らしに対する考え方も多様化してきており、身近できめ細やかな公共的サービスの必要性がますます高まっています。



こうした課題をいち早く解決し、市民一人ひとりが満足できるまちをつくるためには、行政とともに市民のみなさまと一緒にまちづくりを進めていただくことが最も効果的です。

半田市は、以前から自治区を始めとする地域活動や、NPOを始めとする市民活動の盛んなまちです。この素晴らしい半田の風土、気風を活かして、半田ならではの協働を進めていきたいと考え、平成24年3月に「半田市市民協働推進計画（愛称：みんなでいっしょに大作戦）」を策定しました。

本計画策定当初、平成24年度から平成28年度までの5か年計画としていましたが、これまでの進捗状況を踏まえ見直しを行い、「第6次半田市総合計画」の計画期間に合わせて4年間期間を延長し、平成32年度までの計画として、さらなる協働のまちづくりに取り組んでまいります。

このたびの計画の見直しにあたり、多大なご尽力をいただきました市民協働推進計画改訂検討会議委員の皆さまに感謝を申し上げますとともに、市民の皆さまにおかれましても今後とも計画の実現に向け、『みんなでいっしょに大作戦』にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年7月

半田市長 神原純夫



コラム 『おいしいカレー』



みんなで おいしいカレーを創ろう！

あなたの好きなカレーの具材は・・・何を入れますか？

お肉、ジャガイモ、玉ネギ、ニンジンなど入れて作りますよね。

お肉と野菜、まったく違う材料を入れて、コトコト煮込んでおいしいカレーができます。

お肉と野菜が、それぞれのおいしさ、それぞれが持っているいい味を出して、お互いに出しゃばらず、お互いのいいところを持ち寄っています。

そして、とってもおいしいカレーができるのです。

きっと、ジャガイモだけのカレーじゃあまりおいしくないですよね。

協働（コラボレーション）も同じです。

いろんな人と人が出会い、お互いの立場や違いを認識し尊重することから始まります。

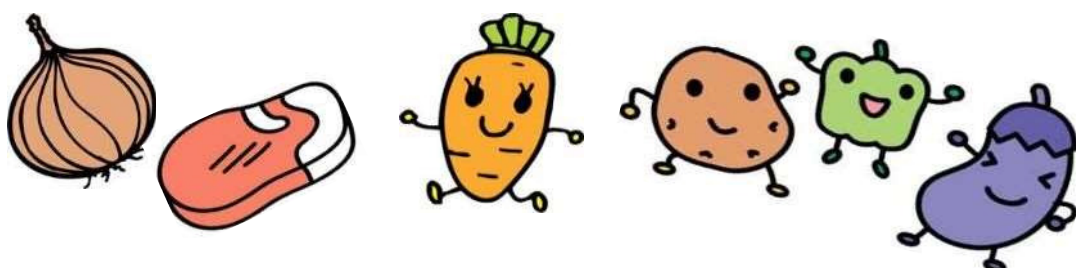
そして、協働のプロセス（過程）を大切にして、人の輪がどんどん広がる楽しさを実感しましょう。

そして、人と人との「つながり」や一人ひとりの「気づき」が、わたしたちのまちを住みやすいまちにします。自分たちが住んでいるまちは、自分たちで良くしていく、その思い

はごくごく普通のことで、難しいことではありません。

あなたとだれかが出会い、お互いを知り、お互いの力を合わせ、助け合い、支え合っていくことが「協働」の第一歩です。

さあ！みんなでいっしょに協働という『おいしいカレー』を創りましょう！





*** 目 次 ***

第1章 協働の基礎知識

■協働ってなあに？	1
■なぜ協働が必要なの？	2
■協働のまちづくりを進めるメリットは？	3
■何を協働するの？	4
■協働するときに必要なこと	5
■だれとだれが協働するの？ 協働を進めるためにそれぞれに期待される役割	7
■まず何をしたらいいの？	9
■協働についての相談窓口はどこですか？	10
～これまでのたくさんの協働の取り組み～	11





第2章 計画策定（改訂）にあたって

1 計画の趣旨	17
2 計画期間	18
3 半田市における市民協働の現状と課題	19

第3章 協働のまちづくりを推進するために

施策体系	21
1 協働意識の醸成	23
2 コミュニティの活動支援	24
3 ボランティア・市民活動団体の活動支援	25
4 『はんだまちづくりひろば』の機能強化	26
5 情報共有の推進	27
6 財政的支援	28
7 協働の仕組みづくり	29
8 市民と市民の協働の推進	30
9 協働推進体制の整備と検証体制の確立	31

第4章 協働するときのポイント

協働するときのポイント	32
協働のためのチェックシート	33

参考資料

これから取り組みたい協働事業の提案	35
【平成24年3月策定時】	
その1 行政からの提案	
その2 市民からの提案	
アンケート調査結果	39
半田市市民協働推進計画改訂検討会議委員名簿	45



第1章 協働の基礎知識



■協働ってなあに？

(注) 『市民』と行政、または『市民』と『市民』が、例えば暮らしの安全・安心や伝統文化など地域で大切にしたいものを守る活動などのために、同じ目標に向かい、互いの特性(強み)を活かしながら一緒に考え、協力して取り組み、みんなで楽しみながら住みやすいまちをつくるために行動することを協働といいます。

(注)：この場合の『市民』は、個人である市民だけではなく、地縁組織(自治区、町内会等)、市民活動団体、NPO法人(特定非営利活動法人)、企業、学校などの教育機関を含みます。

『市民』と『市民』の協働は、例えば「自治区と市民活動団体」や「NPO法人と企業」など様々な組み合わせが考えられます。

それぞれが持つ知識や能力、専門性などを出し合うことにより、不得意な部分を補い合うことや、お互いの得意分野を活かすことができるため、単独ではできないことが実現できたり、単独で実施するよりも効率が良くなるなど、よりよい結果が得られたりといった相乗効果が期待できる場合などに行うひとつの手法です。



「協働」って手法のひとつで、協働することが目的じゃないんだよね～

■なぜ協働が必要なの？

市民のみなさんが求める公共サービスは、生活の高度化や価値観の多様化などにより個別化、複雑化し、拡大しています。そういった中、行政が提供できるサービスだけでは、満足度の高いまちづくりを行うことには限界があります。

また、行政にとっては、防災対策、環境問題、少子高齢社会への取り組みや情報化、国際化など取り組まなければならない課題が多様化している中、さらに拡大するニーズに行政だけで対応することは難しくなってきました。

そこで、自分でできることは自分で行うという「自助」と、個人ではできないことを地域や周囲で助け合い支え合う「共助」を再認識した上で、地域の課題は地域で話し合い、解決に向けて行動することが重要となってきました。行政は地域だけでは解決できない課題と一緒に取り組みます。

多様化するニーズに的確に対応するために、市民のみなさんの発想や創造力を活かしていく中で、新しい行政運営を進める協働によって、よりきめ細かく満足度の高い公共的サービスが提供されることが求められています。



「きょうどう」と読む言葉はいろいろあり、違いが分かりづらいので辞書で調べてみました。

「協働」：協力して働くこと。

「共同」：二人以上の者が力を合わせること。(例：共同開発)

「協同」：ともに心と力をあわせ、助けあって仕事をする事。(例：協同組合)

(出典：株式会社 柳岩波書店「広辞苑」)

■協働のまちづくりを進めるメリットは？

市民のみなさんが主体的にまちづくりに関わることで「市民が主役」となるまちをつくり上げるとともに、市民のみなさんの^{してん}視点に立った、公共的サービスが^{ていきょう}提供されるようになります。

市民のみなさんが^{ふだん}普通の暮らしの中で「こうしたらもっとまちがよくなるのに」と気づいたことを行動に結びつけることで、まちに対する^{ちいき}愛着が深まり、^{ささ}地域の連帯感や支え合う心が育まれ、より暮らしやすいまちになります。

地域の連帯感が強まることにより自治力も高まり、^{ぼうさい}地域防災活動などが活発化することで、近い^{しょうらい}将来起きると予想される東海・東南海・南海地震等（南海トラフ地震）の^{さいがい}災害時の^{げんさい}防災や減災にもつながります。

また、まちづくりへの参加が、市民のみなさんの生きがいづくりや^{じ こじつげん}自己実現の機会につながることも期待できます。

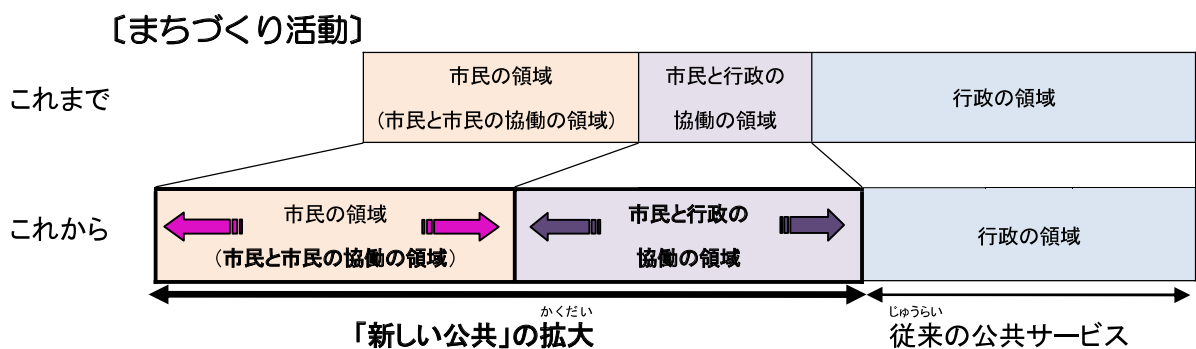


■何を協働するの？

協働で行う事業は、防災・防犯、教育、文化、環境、福祉などの公共的なサービスの分野で、一緒に取り組んだ方が実施の効果が高いものなどが考えられます。具体的には、地域との密接な連携が必要な地域防災訓練や青色防犯パトロール、青少年の健全育成に関する活動、資源回収などごみの減量化に関すること、地域ごとにきめ細かい対応が必要な高齢者介護や子育ての支援などは、特に協働に適した分野であり参加しやすい分野でもあると言えます。そのほかにも今後は市民のみなさんのアイデアで実施ができる事業も考えられます。

また、「はんだ山車まつり」「はんだ蔵のまちイベント」「ごんの秋まつり」等、半田市の自慢すべき特長である観光に関する分野では、これまでも多くの市民のみなさんや市民活動団体が一緒に取り組んでいます。

*** まちづくり活動のこれまでとこれから ***



「新しい公共」とは、『「ささ 支え合いと活気ある社会」をつくるための当事者たちの「協働の場」(「新しい公共宣言」より)』とされ、ぎょうせい 行政だけでなく様々な担い手になが協働しながら行う公共的なサービスを示します。

※「市民と行政の協働の領域」では、市民のみなさんが主導し行政が協力する事業、行政が主導し市民のみなさんが協力する事業、両者が同等に行う事業などがあり、協働のしかたも様々です。



■協働するときに必要なこと

まず何よりみんなで一緒に楽しく行うことが大切です。

そのために次のことを意識しながら取り組みましょう。



◇何のために一緒に行くのかを確認する

(目的共有)

協働事業に関わるすべての人が同じ目的を共有するとともに、協働事業の実施にいたるまでのプロセスなどが全て明らかにされた状態で取り組むことが必要です。



◇お互いの違いを知る

(相互理解)

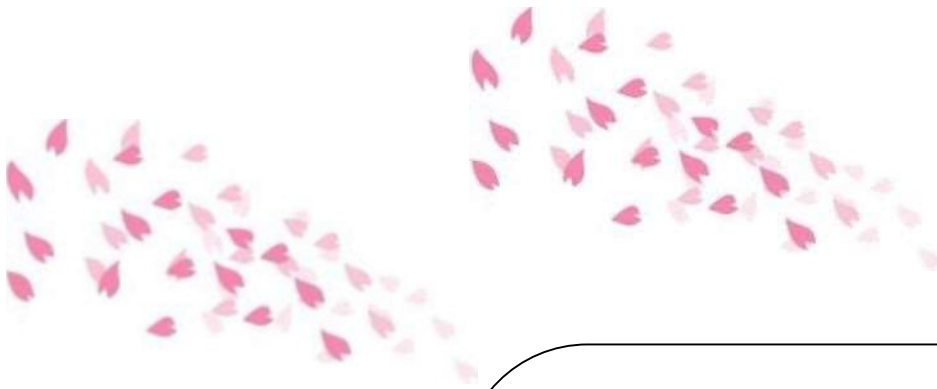
協働を行うときには、話し合いの場をつくり、それぞれが立場や考え方の違いを認識し、お互いを理解し合い、自主性を尊重したうえで、知恵と力を結集し、相乗効果の創出に努めましょう。

ないしょ
◇内緒にしない

じょうほう
(情報共有)

えんかつ じっし たが
事業を円滑に実施するために、お互いが持
っている情報などを内緒にすることなく、共
有するように努めましょう。

りかい
また、情報を公開し、理解が得られるよう
とうめいせい かくほ
透明性を確保することも必要です。



お
◇押し付けない、押し付け合わない

(対等)

こうちく
協力的な協働の輪を構築するために、上下
いそん
関係や依存関係を持たない対等な立場で、ど
ちらか一方に押し付けたり、押し付け合った
りすることなく、いっしょ
一緒に取り組みましょう。

かんりょう
また、すべての協働事業は事業の完了ま
で対等な立場を保ちながら行いましょう。



■だれとだれが協働するの？

協働のまちづくりは市民と行政ぎょうせい、または市民と市民が協力して取り組み、だれもが協働の担い手になになり得ます。協働で行う事業の内容ないようによって、より効果的なパートナーの組み合わせで実施するじっしものです。



*** 協働を進めるためにそれぞれに期待される役割 やくわり ***

〔 市民こじん（個人）の役割 やくわり 〕

- 身近な問題かいかつの解決に向けてできることから実践し、お互いに助け合う。じっせん たが
- 地域活動へ積極的に参加する。ちいき
- 関心のある分野について、自ら積極的に取り組む。
- 市政しせいに関心を持ち、市政に関わる機会には積極的に参加する。

〔 地縁組織ちえんそしき（自治区、町内会等）の役割 〕

- 住民が多く参加できる行事かいさいを開催するなど、住民同士の交流を図る。
- 地域の課題は、地域で考え話し合い、助け合い支え合いながら地域が中心ささと
なって解決していく。
- 地域力を活かした公共的サービスを担う。
- 地域の中の組織づくりやネットワークづくりを行う。

〔 市民活動団体、NPO 法人の役割 〕

- 様々な催しなどに参加し、自らの活動を紹介することにより、仲間を増やしたり、他の団体とのネットワークを築きながら、活動の強化拡大を図る。
- 専門的な知識や情報を地域活動など様々な機会に活用する。
- 柔軟性や機動性を発揮して、市民ニーズにきめ細かく対応した公共的サービスを提供する。

〔 企業、教育機関等の役割 〕

- 地域社会の一員として積極的にまちづくりに参加する。
- 地縁組織や市民活動団体の活動に対して、資源や情報、技術などを提供し支援する。
- ボランティア休暇制度の導入など、働く人が社会貢献活動に参加しやすい環境を整える。

〔 行政の役割 〕

- 行政が担うべき分野においては、効率的かつ確実に責任を果たす。
- 市民のみなさんの自主的な取り組みを促進し、市民のみなさんが力を発揮しやすい環境をつくる。
- 市民のみなさんと情報が共有できるようコミュニケーションの機会をつくる。

■まず何をしたらいいの？



◇ちいき地域活動へ積極的に参加しましょう。

地域の人同士がつながることで、地域の連帯感や支え合う心ささが育まれ、まちに対する愛着くが深まり、より暮らしやすいまちになります。

いざという時にも、地域の連帯感は何よりも強い力になります。

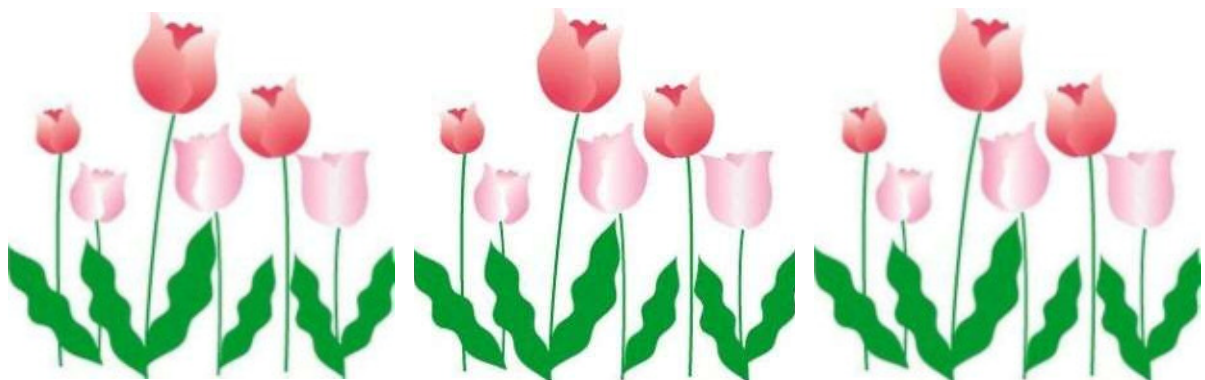
◇無理をせずできることから始めましょう。

例えば、「はんだクリーンボランティア」に登録して自分の家の周辺の道路のゴミりっぱを拾うことも立派な協働です。あなただけでなく、その道を通る人もきれいな道は気持ちよく通ることができます。

無理をせず、身近なことから始めてみるのが大切です。

◇自分の力を活かしましょう。

協働のまちづくりは市民のみなさんの思いや力を集めて取り組むものであり、みなさんの力が欠かせません。一人ひとりが自分の得意なことや培つちかった知識ちしきなどを活かすことで、より楽しいまちづくりにつながります。



■協働についての相談窓口はどこですか？

市民のみなさんが市と協働する場合、市の全課が協働の窓口です。協働する事業・活動の内容によって、担当課で対応します。

また、半田市はボランティア・市民活動団体・自治区などへの効率的で機能的なサポートを始め、半田市のまちづくりに関わる全ての市民のみなさんや団体の交流、まちづくりに関する情報収集・発信などを行う『はんだまちづくりひろば（愛称：まちひろ）』を運営しています。

『まちひろ』は、あなたの「活動したい」「だれかに手伝ってほしい」「知りたい」にこたえます。さらに、『まちひろ』に団体として登録していただくと、市民交流センターの会議室、印刷室の利用など活動支援を受けることもできます。

また、地域活動情報サイト『はんだまちづくりひろばネット（愛称：まちひろネット）』もあわせて開設し、市民のみなさんが求める情報をより受け取りやすくなるよう、地域活動情報を集約し、テーマごとに整理して発信しています。

★ボランティア・市民活動に関する相談窓口

『はんだまちづくりひろば』

半田市広小路町155番地の3 クラシティ3階

（半田市市民交流センター内）

Tel.0569-32-3440

★半田市内の講座・イベント、ボランティア

・市民活動に関する情報サイト

『はんだまちづくりひろばネット』

URL : <http://www.machihiro.net/>

まちひろ	けんさく 検索
------	------------



click(クリック)



QRコード

～ これまでのたくさんの協働の取り組み ～

半田市には、それぞれの自治区やコミュニティなどでの地域活動の長い歴史があり、また、市民活動も活発で「はんだまちづくりひろば」の登録団体だけでも約180の市民活動団体があります。NPO法人の数も41団体に上り、知多地域にあるNPO法人のうち、約3分の1が半田市に集まっています。

このことは協働にとってとても大きな力であり、半田市の自慢すべき特長とも言えます。

協働は新しい取り組みではなく、半田市では培われた風土を礎に、すでにたくさんの協働が行われています。市が協働した取り組みのうち、代表的なものをいくつか紹介します。

暮らしの安全・安心の分野



□自主防災訓練

各自治区と自主防災会が、自助・共助の精神のもと地域の防災活動を効果的に行うために自主防災訓練を実施し、防災・減災力を高めています。



□青色防犯パトロール

地域住民が、犯罪や事故、災害の被害の未然防止と、地域の安全に対する関心や連帯感を高めることを目的として、青色回転灯を自動車に装着し、自主防犯パトロールを実施しています。

環境の保全などの分野



□はんだクリーンボランティア

市民や団体、企業のみなさんが、身近な公園や道路などの公共施設を管理するボランティアとして登録し、清掃美化活動を行っています。市はみなさんが活動しやすいよう必要な道具の支給や貸し出しなどを行っています。



□環境学習 自然観察会

豊富な知識を持つ知多自然観察会に講師を委託し、市内の小学生以上の親子を対象に、年に4回「自然観察会」を開催しています。夏には市内を流れる川で「川の生きもの教室」を開催しています。



□ごみ減量等推進員（3Rアドバイザー）活動

自治区の推薦により、「ごみ減量等推進員」として委嘱されたみなさんが、市内のごみステーションを巡回しながら、市民自らのつながりの中から「ごみの分別の徹底」、「リサイクルの推進」、「ごみの正しい出し方」の指導を行っています。



□かいどり大作戦

有脇コミュニティ各団体役員や地元団体等と市が中心となり、地区の小学校と協力して、ため池の水を抜き、池に生息する外来魚の駆除と清掃等を目的に、池干しを実施しています。有脇地区の5つの池で毎年1か所ずつ行っており、小学校の児童たちも、ため池に入り、生き物の生態調査を行っています。

同様の取り組みが、乙北ため池クリーンの会が中心となり、横川小学校区内でも実施されています。



自治区への公園等施設管理委託

市内の公園や街園の除草と清掃作業を、地元自治区に委託しています。市はそれ以外の樹木の剪定や施設の修繕等を担当し、区と市が協働で公園と街園を管理しています。



マイレポはんだ

スマートフォンなどを利用して、市内の道路の陥没など地域の危険箇所や問題を市民のみなさんから幅広く知らせてもらい、地域の課題や問題を解決する制度に取り組んでいます。

福祉の分野



ふくし井戸端会議

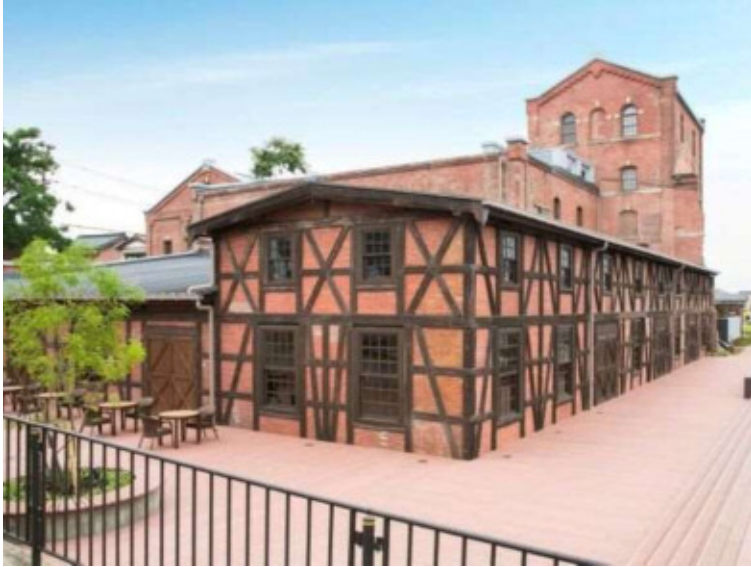
地域住民が集まり、身近な地域の課題などについて話し合う場として、平成22年度から地域住民、半田市社会福祉協議会とともに、市内5中学校区ごとに公民館などで開催しています。



地域支えあい（お助け隊）

ふくし井戸端会議で話された地域で支えあう仕組みとして、お助け隊や思いやり隊などが各地区で発足し、地域の困りごとの解決に取り組んでいます。

観光・文化の分野



□半田赤レンガ建物

建物の保存活動を行う「赤煉瓦倶楽部半田」と協力し、年に数回内部の公開を行ってきた半田赤レンガ建物は、平成27年7月に常時公開の観光施設としてオープンし、様々なイベントを開催するなど、歴史的な価値の高い建物を広く紹介し誘客を図っています。



□蔵のまちネットワーク

半田運河周辺エリア「はんだ蔵のまち」の観光施設や飲食店、市民が中心になって、年間を通じて節句イベントを行うことで、「蔵のまち半田」をPRしています。



□はんだ山車まつり

市内31台の山車が一堂に集結する、5年に1度実施する半田市最大のイベントです。山車組関係者、地域、市民活動団体、企業、学校などが協力し、市民全体で運営し、半田の文化の粋を披露しています。



□矢勝川堤での彼岸花の植え付け

童話「ごんぎつね」の舞台でもある「矢勝川」の堤で、地元住民有志による「矢勝川の環境を守る会」により、同作品の中でも描写のある彼岸花が植え付けられています。植え付けには、地元の小学校、保育園も参加しています。現在では延長2kmに渡り、300万本の彼岸花が植え付けられ、さらに増加しています。



□ごんの秋まつり

岩滑地区と連携し、300万本の彼岸花が咲き誇る矢勝川堤や、新美南吉記念館を中心とした地域でイベントを開催しています。



□新美南吉記念館展示ガイド

休日などに、新美南吉顕彰会の活動の一環として、新美南吉記念館展示室でのボランティアによる展示ガイドを実施しています。また、要請に応じて、南吉生家ほか、南吉ゆかりの地を巡る文学散歩ガイドも行っています。

教育の分野



□ゲストティーチャー制度

登録された市民のみなさんが、特技や経験を活かして、小中学校や公民館、一般のグループ、社会教育関係団体などからの依頼に応じ、ボランティア講師として活躍する制度です。



□成岩第三区教育懇話会

行政区、学校関係者、地域のボランティア団体が連携をとりながら地域の子供たちが安心、安全に暮らせるよう年4回情報交換をしています。



その他の分野



□横川小学校区夏祭り

横川小学校区内の自治区、学校、PTAなどが連携・協力し合同で夏祭りを行い、地域のふれあいの場として、世代を超えた自治区間の交流を深め、顔の見える関係づくりを築いています。



□半田市成人式

二十歳の門出を祝う成人式の企画・運営を、新成人が主体となって行い、市がサポートして実施しています。

第2章 計画策定(改訂)にあたって



1 計画の趣旨

半田市では、平成 23 年度から向こう 10 年間のまちづくりの指針となる第 6 次半田市総合計画を策定しました。その中で、本市の普遍的な都市像である「健康で明るく豊かなまち」を実現するため、今後の 10 年を展望して、これからのまちづくりの理念を「愛着と誇りを育み、支え合い高め合うことで活力に満ちたまちをつくる」とし、めざす 10 年後の都市像を「次代へつなぐ市民協働都市・はんだ」としました。

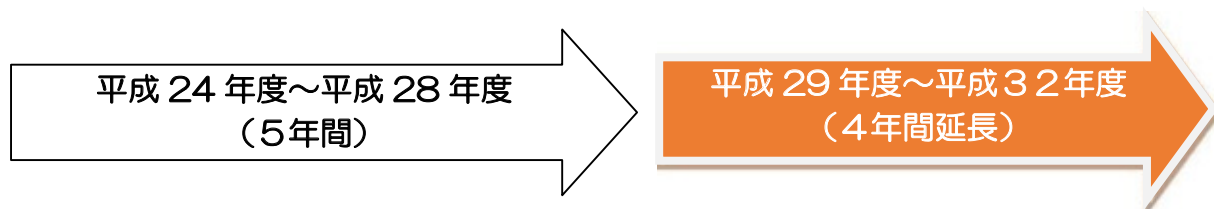
市民のみなさんと行政がそれぞれの力を高め、お互いに連携しながら協働で取り組む活動が活発に行われ、ニーズに合わせたきめ細やかな公共的サービスが提供できるまちをめざすものです。

協働のまちづくりを一層推進していくためには、すべての市民のみなさんと行政が今後のまちづくりの基本理念とそれぞれが担う役割を共有するための指針と、協働を進めるためのルールを定めるなかで、行政がより積極的に推進策を講ずることと、既に多く実践されているがこれまではっきりと定義されていなかった協働に対する市民のみなさんの理解を深め、より意識的に協働に取り組んでいただくことが必要と考え、半田市市民協働推進計画を平成 24 年度に 5 か年計画とし策定しましたが、これまでの進捗状況を踏まえ見直しを行い、4 年間期間を延長し平成 32 年度までの計画として改訂しました。

計画の愛称は『みんなでいっしょに大作戦』、みんなで楽しく力を合わせて半田をより住みやすいまちにしていきたいと思います。

2 計画期間

本計画策定当初、平成24年度から平成28年度までの5か年計画としていましたが、第6次半田市総合計画の計画期間に合わせて4年間期間を延長し、平成32年度までとします。



〈 第6次総合計画における「協働のまちづくりの推進」に関する数値目標 ^{すいしん} ^{すうち} 〉

基本成果指標	計画策定時	現状値	目標値
	平成21年度	平成26年度	平成32年度
市民が中心となって協働のまちづくりが進められているまちだと思う市民の割合	16.8%	50.5% [35%]	60% 【55%】
市政に関する必要な情報が提供されていると思う市民の割合	34.3%	63.9% [50%]	70% 【65%】
この1年間にコミュニティや自治区の活動に参加したことがある市民の割合	37.7%	47.1% [55%]	70%
市民活動団体登録数	149 団体	175 団体 [230 団体]	260 団体
市内 NPO 法人認証数	27 法人	40 法人 [35 法人]	45 法人

[] 内の数値は計画策定時の平成27年度目標値

【 】内の数値は計画策定時の目標値

3 半田市における市民協働の現状と課題

①エリア（地域）型組織

半田市ではそれぞれの自治区やコミュニティなどで古くから地域活動が活発に行われており、地域の祭り文化に根ざした世代間交流も盛んです。特に市内には42の自治区があり、この地縁組織を中心に地域住民の交流や、福祉、地域の安全・安心、環境維持など、身近な地域課題への取り組みが展開されています。また、この自治区が市民のみなさんと行政の橋渡し役として重要な役割を担っています。

しかし、価値観の多様化などにより、自治区への加入率や地域の活動に対する参加意識の低下、地域によっては少子高齢化に伴う役員の高齢化や人材不足などにより活動に支障をきたしている状況もあります。そのため、住民同士が助け合い支え合う地域社会を形成し、地域の連帯感を高め、コミュニティを活性化することが求められています。

②テーマ（目的）型組織

半田市は市民活動が盛んなまちであり「はんだまちづくりひろば」の登録団体だけでも約180団体あります。市民活動団体のうち、NPO法人（特定非営利活動法人）は41団体（平成29年3月現在）あり、知多地域にある132のNPO法人のうちの実に約3分の1が半田市に集まっています。ボランティア・市民活動団体などの活動はさらに広がりつつあり、まちづくりの担い手として期待が寄せられています。市民活動が活発になれば、協働を進める力が養われてきます。

しかし、現状では団体間のネットワークの不足や、団体によっては活動資金、人材不足などの問題を抱えています。

また、情報じょうほうが十分でないことなどからボランティアや市民活動に関心があっても参加へのきっかけがつかめない人も多く、より効果的こうかな支援策しえんさくが必要になっています。

③地域での組織間連携

子育てや防犯、高齢者サービスなどの身近なところで継続的けいぞくに対応たいおうが求められる福祉施策ふくししやくに関しては、行政ぎょうせいや個人こじんだけでは対応しきれない状況もあり、今後は、地域かいけつで解決していくことが求められます。そのため、自治区やコミュニティなどのエリア型組織と、ボランティア・市民活動団体などのテーマ型組織たがが互いに補完ほかんし合い、タテ・ヨコに組み合わせりながら、それぞれがまちづくりの担い手として成長し、協働せいじゅくを通じて地域社会が成熟することが望まれます。

④企業等

企業等においても、社会貢献こうけんに対する意識いしきは年々高まり、様々な取り組みが行われていますが、社会貢献に取り組む専門部署が設置されていなかったり、どのように取り組むか分からないなどの課題もあります。企業間かぎに限らず多様な組織との情報交換こうかんや、ネットワーク構築こうちくの機会そうかを増加させ、一層協働いっそうに参加しやすい環境かんきょうづくりが必要になっています。



第3章 協働のまちづくりを推進するために



半田市における協働の取り組みや、現状と課題を踏まえ、協働のまちづくりを市民のみなさんと一緒に進めていくために、市が取り組んでいくべき施策の方向を示し、さらなる推進体制の強化を図ります。



《 施策体系 》

推進方策	基本施策	具体的施策
1. 協働意識の醸成	意識の啓発	<ul style="list-style-type: none"> 各種啓発イベント等の開催 市民協働出前授業の開催
	職員の意識改革	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修の実施
2. コミュニティの活動支援	自治区の組織力強化	<ul style="list-style-type: none"> 地縁活動のPR 自治区の課題解決に向けた検討
	意識の啓発	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動の強化
	コミュニティリーダー等の育成	<ul style="list-style-type: none"> 地域リーダー育成講座等の実施 コーディネーター育成講座等の実施
	活動環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設の利用方法等の見直し 地域担当職員の配置
	規模の適正化	<ul style="list-style-type: none"> 小学校区単位の活動や組織体系の検討
	地域の交流の場づくり	<ul style="list-style-type: none"> 空き家等の活用促進
	防災・減災力強化の支援	<ul style="list-style-type: none"> 地域防災訓練等の支援
3. ボランティア・市民活動団体の活動支援	支援講座の開催	<ul style="list-style-type: none"> 効果的支援講座の実施
	リーダーの育成	<ul style="list-style-type: none"> リーダー育成講座等の実施
	活動団体の支援	<ul style="list-style-type: none"> 市民活動助成金等の実施
	活動のPR支援	<ul style="list-style-type: none"> 各種啓発イベント等の開催 情報紙・情報サイトの充実

推進方策	基本施策	具体的施策
4. 『はんだまちづくりひろば』の機能強化	<ul style="list-style-type: none"> 活動のPR 活動団体間の交流の促進 相談体制の充実 コーディネーターの育成 公益的活動の支援 中間支援組織の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報コーナーの充実 ・「みんなの交流サロン」等の開催 ・相談窓口の充実 ・コーディネーター育成講座等の実施 ・企業情報交換会の開催 ・企業と活動団体等との交流会の開催 ・中間支援組織の設立に向けた検討
5. 情報共有の推進	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動及び情報提供の推進 広聴活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な広報媒体の活用 ・情報サイト「まちひろネット」等の充実 ・意識調査、各種懇談会の実施 ・「(仮称)まちづくりサロン」の設置促進
6. 財政的支援	<ul style="list-style-type: none"> 助成金制度による支援 情報収集と提供 基金制度の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・助成金制度の充実 ・助成金交付団体の報告会の実施 ・各種支援制度情報の積極的提供 ・「(仮称)まちづくりファンド」等の検討
7. 協働の仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> 協働事業の提案 協働事業の実践事例の共有 計画づくりへの参画 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な協働事業提案 ・協働事業の調査 ・協働事業の実践事例の情報共有 ・計画策定過程への市民参画の促進 ・計画進行管理への市民参画の促進
8. 市民と市民の協働の推進	<ul style="list-style-type: none"> 情報コーナーの充実 交流、情報交換の場の提供 助成金制度の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動情報の閲覧体制の整備 ・活動などの需給希望の把握 ・多様な主体間の交流の場の提供 ・助成金制度の活用による協働促進
9. 協働推進体制の整備と検証体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> 協働推進体制の整備 検証体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員向け協働研修プログラムの作成 ・協働推進担当者の配置 ・協働推進委員会の設置

1 協働意識の醸成



市民のみなさんの協働に対する理解が深まるよう、広報活動や啓発活動に努めます。また、年齢や性別を問わず、全ての市民のみなさんの力をこれからのまちづくりに発揮していただけるよう、参加のきっかけとなるようなさまざまな企画の実施に努めます。さらに、地域活動の有力な担い手である現役を退いた世代や、将来的な協働の推進につなげるため若い世代を対象とした取り組みについても検討し実施します。

また、市職員が協働について正しく理解し、協働のまちづくりに向けて一丸となって取り組めるよう、自己変革につながるような研修を実施するとともに、市民のみなさんにつながることの重要性について啓発し、一住民、一個人として地域活動や市民活動に参加するよう促します。

基本施策	内容
意識の啓発	○市民協働推進計画の周知を通じ、市民のみなさんの協働に対する理解の促進に努めます。
	○年齢や性別にかかわらずすべての方が地域の中でまちづくりのために意見を出し合い尊重し合えるよう啓発します。
	○市民のみなさんの市民活動への参加のきっかけづくりや、団体の活動を広く知ってもらうための事業を実施します。
	○将来の協働の担い手となる若い世代向けの啓発事業を検討し実施します。
職員の意識改革	○現状では所属や所管により差がある職員の協働に関する理解を深めるための研修を実施します。
	○職員が地域活動や市民活動に積極的に参加するよう啓発に努めます。

2 コミュニティの活動支援 しえん



ちいき 地域において様々な主体が協力し連携れんけいを図りながら、それぞれの立場で「新しい公共」になを担うことにより、地域にふさわしい多様な公共的サービスが提供ていきょうされるよう、地域の状況じょうきょうにおう応じた取り組みを支援します。

基本施策 <small>きほんしさく</small>	内容 <small>ない 容</small>
自治区の組織力強化	<p>○地域への関心を深め、住民相互の連帯感<small>そうご</small>を醸成<small>じょうせい</small>するため、自治区を始めとする各種団体による地域活動の基盤なるコミュニティ活動を支えます。</p> <p>○各自治区の情報や抱える課題を共有して解決に導く検討を進めるとともに、住民の自治区への加入促進に努めます。</p>
意識の啓発 <small>いしき けいはつ</small>	<p>○コミュニティの重要性<small>せい</small>について、広報紙やホームページなど<small>こうほう</small>により周知を図り、市民のみなさんの意識高揚<small>いしきこうよう</small>に努めます。</p>
コミュニティリーダー等の育成	<p>○コミュニティ活動を推進するため地域リーダーや、市民活動団体とコミュニティをつなぐコーディネーターを育成します。</p>
活動環境の整備 <small>かんきょう せいび</small>	<p>○コミュニティ活動の充実<small>じゅうじつ</small>を図るため、公共施設の利用方法を見直すなど、コミュニティ組織が活動しやすい環境を整えます。</p> <p>○地域と行政のつなぎ役として、地域担当職員を配置し活動のサポートを図ります。</p>
規模の適正化 <small>きぼ てきせい</small>	<p>○効率的、効果的なコミュニティ活動を推進するため、小学校区単位を基本としたコミュニティエリアでの実施可能な活動内容や組織体系について検討します。</p>
地域の交流の場づくり	<p>○地域で自由に語り合える場づくりを支援します。</p>
防災・減災力強化の支援 <small>ぼうさい げんさい</small>	<p>○大災害の発生が懸念される今日、地域に最も期待される防災・減災力の強化のための活動を支援します。</p>

3 ボランティア・市民活動団体の活動支援



ボランティアや市民活動団体がその特性を活かし、自主的な取り組みを円滑かつ活発に行えるよう、メンバーの資質向上のための講座の開催やリーダーとなる人材の育成など活動基盤の強化を支援します。

また、活動の拡大が図れるよう、活動を広く周知できる機会や情報発信を支援します。



基本施策	内容
支援講座の開催	○ボランティア・市民活動に参加している市民のみなさんや活動団体を対象に、円滑な活動やメンバーの資質向上のための講座を開催します。
リーダーの育成	○さまざまな機会を通じて、ボランティア・市民活動の果たす役割の重要性を啓発し、活動のリーダーとなる人材を育成します。
活動団体の支援	○ボランティア・市民活動の促進を図るため、市民活動助成金等により、活動団体を支援します。
活動のPR支援	○団体の活動を広く知ってもらうための各種啓発イベントなどの開催を通じ、団体の会員増加につながるよう支援します。 ○団体の活動内容やイベント情報のPRのために活用できるよう情報紙『かつどん』や情報サイト『はんだまちづくりひろばネット』の充実を図ります。

4 『はんだまちづくりひろば』の機能強化



ボランティアや市民活動団体を支援する『はんだまちづくりひろば（愛称：まちひろ）』のPRに努め、さらに利用を促進するとともに、市民活動団体やボランティア団体などを始め、公益的な活動をする市民のみなさんにとって、わかりやすく利用しやすい窓口とします。また、効率的かつ機能的なサポート体制を整え、コーディネート機能の強化を図り、地域のコミュニティ組織との連携を促進します。

さらに、将来的に『はんだまちづくりひろば』の機能を担う中間支援組織の設立に向けた検討を進めます。

基本施策	内容
活動のPR	○ボランティア・市民活動団体に対する理解と参加機会の拡充を図るため、団体に関する情報発信に努めます。
活動団体間の交流の促進	○『みんなの交流サロン（愛称：みんサロ）』などの開催を通じた団体間の交流、連携を促進します。
相談体制の充実	○ボランティア・市民活動に関する様々な相談をいつでも気軽に行うことができる相談体制を充実します。
コーディネーターの育成	○コーディネーターを育成し、団体への助言のほか、行政や地域のコミュニティ組織、団体同士の連携を促進し、ボランティア・市民活動団体の活動の活発化を支援します。
公益的活動の支援	○企業が行政や地域のコミュニティ組織、市民活動団体などと連携をとりながら、社会を構成する一員「企業市民」として実施する社会貢献活動を支援します。
中間支援組織の検討	○『はんだまちづくりひろば』の機能を担う中間支援組織の設立に向けた検討を進めます。

5 情報共有の推進



まちづくりへの関心と参加意識の醸成を図るため、様々な広報媒体を活用して市政に関する情報を積極的に発信します。また、地域活動情報サイト『はんだまちづくりひろばネット（愛称：まちひろネット）』を利用して市民活動団体が主体的に情報を受発信したり、市民のみなさんが活動に関する必要な情報を容易に入手できるようさらに充実^{じゅうじつ}に努めます。

さらに、市政に対する評価とニーズを的確に把握するための広聴活動の充実を図ります。

基本施策	内容
広報活動及び情報提供の推進	○市政に関する情報、市民生活や市民活動に関する情報を広報紙、インターネット、ケーブルテレビなどの多様な媒体を利用し、迅速かつ詳細に提供します。
	○市政に関する情報の積極的な提供により、市政への関心と参加意識の醸成を図ります。
	○まちひろネットやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などにより効果的に情報を受発信できるよう充実に努めます。
広聴活動の充実	○市政に対する評価やニーズを的確に把握するため、市民意識調査、各種懇談会を定期的 ^{じっし} に実施します。
	○意見や希望に対する市政への反映状況を公表します。
	○地域で語り合える場として設置を目指す『（仮称）まちづくりサロン』を効果的な広報広聴活動に活用することを視野に設置を促進します。

6 財政的支援



活動を組織的に実施し継続するには、財政基盤の確立が不可欠です。公益的事業に対する適切な助成制度などを活用した支援に努めます。

また、「新しい公共」を担える市民活動団体等に対し、公募型の事業補助を拡充します。

さらに、寄附金等を資金源とする基金の創設についても検討します。



基本施策	内容
助成金制度による支援	○初動支援、事業提案型、環境整備支援など助成金の充実を図り、活動団体等の状況に合わせ効果的に支援します。
	○活動団体同士の協働を推進するため、公募提案型事業が協働により実施されるものである場合は、助成率の加算を実施するなど効果的に支援します。
	○助成金制度の周知を図るため助成金を交付した団体の事業報告会を実施します。
情報収集と提供	○各種財政支援制度の情報を収集し、支援を求める団体等に積極的に提供します。
基金制度の検討	○市民のみなさんなどからの寄附金等を資金源とする基金の創設を検討します。

7 協働の仕組みづくり



各種団体の特性を活かした連携や、協働事業の提案を行政から積極的に行うとともに、市民のみなさんからも協働事業の提案が得られるよう、協働事業の実践事例を取りまとめ情報共有を図ります。

また、市民みなさんの各種計画づくりへの参画を積極的に推進することにより、みなさんの意見を幅広く計画に反映する仕組みを構築するとともに、計画の進行管理における市民参画の仕組みについても整備します。

基本施策	内容
協働事業の提案	○各種団体の特性を活かした連携や協働事業の提案を積極的に行います。
	○市民のみなさんから行政との協働事業の提案ができる制度の導入について検討します。
協働事業の実践事例の共有	○協働事業の実践事例を分かりやすく取りまとめ情報共有を図ります。
計画づくりへの参画	○市政運営に関する各種計画づくりへの市民のみなさんの参画を積極的に促進します。
	○計画策定過程での情報提供により、幅広く意見を聴取し計画に反映します。
	○計画の進捗状況を把握できるようにし、市民のみなさんの目線で計画の進行管理ができる仕組みを構築します。

8 市民と市民の協働の推進すいしん



市民のみなさんの協働に対する理解りかいが深まるよう啓発けいはつに努めるとともに、情報じょうほうの積極的な提供ていきょうや、協働の担い手になとなる様々な市民間の交流の場もうを設けます。

また、協働しようとしたときにパートナー探しさがや協働に役立つ情報よういが容易しゆとくに取得できる環境かんきょうを整えます。



基本施策 <small>きほんしやく</small>	内容 <small>ないよう</small>
情報コーナーの充実 <small>じゅうじつ じゅうじつ</small>	<p>○市民交流センターの情報コーナーで、各市民活動団体の活動内容や組織<small>そしき</small>の概要<small>がいよう</small>、活動状況<small>じょうきょう</small>等の情報<small>えつらん</small>を閲覧できるようにするなど、情報提供の充実に努めます。</p> <p>○「自分ができること」「自分がしてほしいこと」などを登録することによって、ニーズに合わせたマッチングが容易にできるような方法を検討します。</p>
交流、情報交換の場の提供 <small>こうかん</small>	<p>○市民活動登録団体交流会議、エリア型組織とテーマ型組織の意見交換会、社会貢献企業情報交換会<small>こうけんさぎょう</small>など様々な交流、情報交換の場を設けます。</p>
助成金制度の充実	<p>○公募提案型事業が協働により実施されるものである場合の助成率の加算を実施するなど制度の充実に努めます。</p>

9 協働推進体制の整備と検証体制の確立



職員向け協働研修プログラムの作成や、各課への協働推進担当者の配置、協働推進委員会の設置など、ぜんちよう 全庁的、そしきおうだん 組織横断的な協働推進体制を整えます。

また、協働事業の推進状況などを管理、検証するための体制を確立し、協働のまかくじつ ちづくりの確実な推進に努めます。



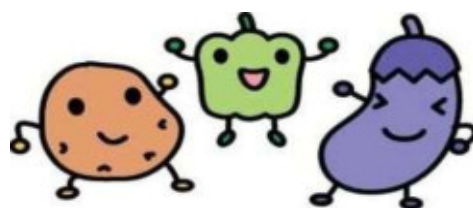
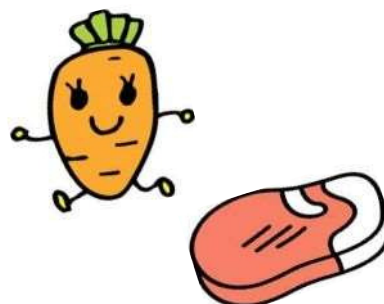
基本施策	内 容
協働推進体制の整備	<p>○協働事業を円滑に進めるための職員向け協働研修プログラムを作成し研修の充実を図ります。</p> <p>○各課へ協働推進担当者を配置し、行政と協働のパートナーとなり得る団体等の情報の収集と積極的な提供に努めます。</p>
検証体制の確立	<p>○協働事業の推進状況などを検証するため協働推進委員会を設置します。</p>

第4章 協働するときのポイント



協働事業を実施する際に、大事なことは
まず何より「みんなで一緒に楽しくやろう」
とする気持ちを持つことです。

相互理解に基づき協働事業を楽しく円滑
に実施するために、「第1章・協働の基礎知
識(5・6ページ)」にある「協働するとき
大切なこと」を意識しながら進めましょう。

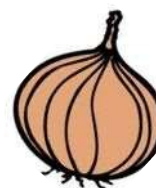


【目的共有】 何のために一緒に行くのかを確認する

【相互理解】 お互いの違いを知る

【情報共有】 内緒にしない

【対 等】 押し付けない、押し付け合わない



これらは協働する際の原則とされるもので、双方でよく話し合うことなくし
ては達成が困難です。話し合うポイントなどについて、次のページ以降にチェ
ックシートを用意しました。





協働のためのチェックシート

共通の目標をよりよい形で達成するために、協働する際の各段階で注意すべきことをまとめました。

協働事業を実施する際に参考としながら、協働を成功させましょう。

・・・シートの使い方・・・

- 事業の進み具合に合わせて、事業の計画を立てる段階では「Plan（計画段階）」、事業を進める段階では「Do（実行段階）」、事業の途中や終了時点でふり返って計画にそって実行できたかを確認する段階では「Check（評価段階）」を使っていただくよう各段階に分けています。段階ごとにそれぞれのシートでチェックしてください。
- そのつど必要なことができているかを確認、話し合いながら、よりよい事業の実施（Action）につなげましょう。

Plan（計画段階）

	ポイント	チェック
1	協働しようとしている事業の目的や、自分たちが達成すべき目標についてよく話し合う。	
2	ニーズを把握して確認し合うとともに、どのように実施していくかを十分に話し合う。	
3	話し合うことにより、お互いの違いをよく理解し、双方の得意とするところ、苦手なところを確認する。	
4	それぞれの得意とするところを活かすことができる効果的な役割分担を決める。	
5	お互いの組織内部の決まりごとなど、注意すべきことについても説明し合っておく。	

Do (実行段階)

	ポイント	チェック
1	率直 <small>そっちよく</small> に意見交換をするなかで、お互い <small>たが</small> に対等な立場で事業を進める。	
2	よりよい実施 <small>じっし</small> に向けて、お互いの強みや得意とするところをどう活かし合えるかを考え、提案 <small>ていあん</small> し合いながら取り組む。	
3	どちらか一方 <small>まか</small> に任せきりにしたり、押し付け合ったりせず、お互い <small>やくわり</small> が役割を自覚して積極的に取り組む。	
4	計画段階 <small>にんしき</small> の認識とニーズなどがずれていないか、実施方法などが適切 <small>てきせつ</small> かを考え、必要 <small>おつ</small> に応じて修正 <small>しゅうせい</small> しながら取り組む。	
5	関連する他の団体や部署 <small>ぶしよ</small> に協力を求めるなど、効果 <small>こうか</small> 的に協働の輪を広げながら事業を進める。	
6	事業の見通しについて、話し合いながら取り組む。	
7	事業の進捗 <small>しんちよくじょうきよう</small> 状況を、ホームページ等を使って広く発信する。	

Check (評価段階)

	ポイント	チェック
1	目的、目標の達成度についてお互いの評価を率直に話し合う。	
2	協働により実施したことで、単独 <small>たんどく</small> で行うのと比べてどのよう <small>くら</small> な効果が得られたかを話し合って共有する。	
3	計画から実行段階までをふり返って、反省すべき点についてあらためて話し合い確認 <small>かくにん</small> し合う。	
4	事業の成果、課題など評価 <small>ないよう</small> の内容を、ホームページ等を使って広く発信する。	

参 考 資 料

- これから取り組みたい協働事業の提案・・・・・・・・・・ 35
 - 【平成24年3月策定時】
 - その1 〈行政からの提案〉
 - その2 〈市民からの提案〉

- 協働に関する市民アンケート調査結果・・・・・・・・・・ 39

- 半田市市民協働推進計画改訂検討会議委員名簿・・・・・・・・ 45

■これから取り組みたい協働事業の提案 その1 〈行政からの提案〉

【平成24年3月策定時】

これから協働で取り組めたら、よりよい結果が得られるのではないかとと思われる「行政からの提案」事業をいくつか紹介します。

提案(1) ふくし相談窓口(仮称)

内 容	地域住民同士で、心配ごとや困りごとなどを相談し合える仕組みとして、「ふくし相談窓口(仮称)」を開設する。相談活動には、所定の講座を修了した地域住民に携わっていただく。気軽に集まれる場所で相談できるよう、将来的には全小学校区での開設を目標としている。
想定される協働のパートナー	地域住民、半田市社会福祉協議会など
期待される協働の効果	身近な場所に、気軽に相談できる窓口ができることで、“どこに相談したらよいかわからない”といった早期の段階から解決の糸口をつかめるようになる。また、地域の相談窓口で、地域で解決できること、専門機関などの相談先につなげることといったように、相談内容を振り分け、情報提供などの適切な対応がとれるようになることで、解決の迅速化につながる。 地域住民同士のつながりや支え合いがさらに進み、安心して暮らせる地域づくりにつながる。
今後の予定	平成23年度から、地域福祉活動に興味や関心を持ち、意欲がある方を対象に、地域福祉に関する様々な分野の講座などを実施し、福祉人材の育成に取り組む。その中から「ふくし相談窓口(仮称)」で相談活動に携わっていただき、平成27年度までにモデル地区での試行、平成31年度までに全小学校区での開催を目指す。
目標年次	平成31年度

提案(2) 地域人材活用事業

内 容	学校(園)にて、授業その他の時間に、優れた知識や技能を有する地域の方々の支援を受け、児童生徒が多様な知識や経験を学ぶ機会を増やす。
想定される協働のパートナー	市民、自治区、市民活動団体、市内事業所
期待される協働の効果	地域の方々から話を伺うことにより、児童生徒が地域の歴史や習慣を直接学ぶことができ、郷土を愛する心を育てることができる。 地域住民の参加により、地域全体で学校の様子を見守ることができる。 先生と地域住民の交流の機会が増え、連携の強化が図れる。
今後の予定	各学校(園)の状況に合わせて、総合学習や社会の時間など、可能な時間から実践する。
目標年次	平成28年度(実施済み)

提案（3） はんだっこフェスティバル

内 容	地域で子育て支援をする個人や団体、学生ボランティア、はんだっこサポーターの協力を得て、親子で楽しめる催しや、体験ブース・展示など行い、子育て支援者や市民活動団体と子育て中の親子とのつながりを目的とするふれあい交流会の開催。
想定される協働のパートナー	子育てボランティア・市民活動団体・はんだっこサポーター・同胞園・学生ボランティアなど
期待される協働の効果	子育て支援にかかわる個人や団体がつながり、地域での子育て支援の充実を図ることができる。
今後の予定	同胞園や、はんだっこサポーター、子育て支援団体等に、実行委員会への参加について依頼し、実行委員会により企画・運営する。
予定年度	平成25年度（実施済み）

提案（4） 「はんだ市報」発行事業

内 容	市民ボランティアにページを割り当て、市民の編集による市民のための情報発信を行ってもらおう。また、現在の「あんなこと こんなこと」など、まちの出来事やイベントを紹介するコーナーにおいて、市民からの写真提供を募る。
想定される協働のパートナー	市民（団体）
期待される協働の効果	市民が直接編集を行うことで、市民目線による市民が求める広報紙を作り上げることができる。また、市民が参加（編集や写真提供など）できる仕組みをつくることで、より身近で愛着のある広報紙を作り上げることができる。
今後の予定	実施計画を策定する。
予定年度	平成24年度～平成25年度（実施済み）

提案（5） 小中学校、保育園、幼稚園での本の紹介、読み聞かせ

内 容	ボランティアとともに小中学校、保育園、幼稚園などの施設に出向いて児童生徒や園児を対象に、本の紹介や読み聞かせを行う。
想定される協働のパートナー	本の読み聞かせボランティア
期待される協働の効果	子どもに本に対する親しみを持ってもらうことで、子どもが本を読む楽しさを知るきっかけとなる。
今後の予定	平成24年度からの実施を目標に、ボランティア及び対象施設と打ち合わせを行っていく。
予定年度	平成24年度（実施済み）

提案（6） ローカルエコアクション事業

内 容	地球温暖化を始めとした様々な環境問題に適切に対応するため、市民、事業者、NPO、行政のそれぞれが主体的に環境活動を実施できるような取組みに対するインセンティブを付与する仕組みづくりを、市民や事業者の方と共に検討する。
想定される協働のパートナー	市民、事業者
期待される協働の効果	本事業の設計段階から市民や事業者に関わっていただくことで、行政だけの視点に偏らない効果的かつ実効性のある仕組みづくりが可能となる。
今後の予定	事業内容を検討し方向性を決定したうえで、早急を実施する。

提案（7） 公園リニューアル等ボランティア

内 容	遊具の塗装、柵の設置など公園施設の修繕や設置を地元で行っていただける場合は市から必要な材料を提供する。
想定される協働のパートナー	市民、自治区、市民活動団体など
期待される協働の効果	住民が主体的に自分達の公園を管理することになり、公園に対する愛着が深まるとともに公園利用の促進につながる。また、公園施設の充実及び維持管理費などの軽減が図られる。
今後の予定	自治区や市民活動団体などに話をし、実施していただける内容を把握し予算化していく。

提案（8） 公園管理の出前講座

内 容	公園の除草の方法、樹木の剪定、花や木の育成と管理など専門的な知識が必要な管理については、造園業者などの専門家による実地研修などの出前講座を実施する。
想定される協働のパートナー	市民、自治区、管理団体、造園業者など
期待される協働の効果	公園管理の方法を身につけることで、公園の維持管理が良好なものとなり、きれいな状態を保つことができる。
今後の予定	造園業者の理解を得る中で、地元の要望に沿って公園管理の出前講座を実施する。



■これから取り組みたい協働事業の提案 その2 〈市民からの提案〉

【平成24年3月策定時】

策定作業部会の市民部会員が、これからこういったことを協働で取り組めたら、よりよい結果が得られるのではないかと思う事業を提案します。

一緒にやれたらもっとよくなることはたくさんあります。みなさんからの提案をお待ちしています。

提案（1） 思いやりの「しゃべり場」づくり

内 容	空き店舗や公民館など身近な場所を、年齢や性別に関わりなくだれもが自由に集い、情報の交換や、情報の発信などが行える地域の拠点として整備し、地域の語らいの場「しゃべり場」をつくる。
想定される協働のパートナー	地域のすべての市民
必要性や期待される協働の効果	地域みんなが参加することにより、地域の人たちのつながりを深め、助け合いや思いやりの心が生まれ、暮らしやすい温かい地域となり、よりよいコミュニティが作られる。 年齢や性別に関わりなくみんなが集い語らうことで、地域のいろいろな問題を共有し、様々な知恵やアイデアを出し合い解決する力が育まれる。

提案（2） まちづくりのための「サロン」の運営

内 容	自治会や地域の協議会など、既にある組織を活用するなか、行政に対して自分たちの意見を伝える仕組みとして、まちづくりのための「サロン」などをつくる。
想定される協働のパートナー	地域のすべての市民、行政
必要性や期待される協働の効果	行政が事業や施策を進めるときに、市民の意見を聞く機会として市政懇談会や説明会などを開催したり、アンケート、パブリックコメントなどを実施されるが、そのような場で発言できる人はあまり多くはない。また、行政全体で行うサロンやワークショップなどは、事業毎に実施されることから、その事業の終了に伴ってサロン等も終了してしまう。 いろいろな立場のできるだけ多くの人が意見を言える機会が、持続的に設けられるようになることが必要である。 行政と一緒に協働で持続性のあるサロン等を立ち上げ、必要なときに話し合いの場を持ち、みんなが気軽にたくさん意見が言える仕組みをつくる。出された意見の中からみんなが共感できたものを行政に伝えることで、より多くの市民の意見を市政に反映できるようになる。 市民の意見を集める方法としての機能に加え、地域で話し合う仕組みができることで、地域組織の活性化や地域のつながりが深まることも期待できる。

■平成28年度 協働に関する市民アンケート調査結果

I. 調査の概要

○調査目的

本調査は、平成24年4月より開始した「半田市市民協働推進計画～みんなでいっしょに大作戦～」の改定に向け、計画の進捗状況等を把握するため実施したものである。

なお、本アンケート調査については、「第6次半田市総合計画」の進捗状況を把握する「まちづくりの指標についての市民アンケート調査」にあわせて実施したものである。

○調査方法：18歳以上の市民を3,000人無作為抽出し、郵送配布・郵送回収で実施

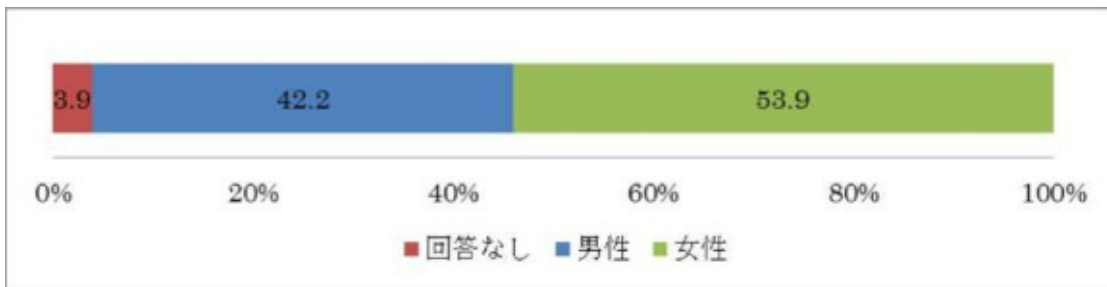
○調査時期：平成28年5月

○有効回答者数：1,333人（有効回収率：44.4%）

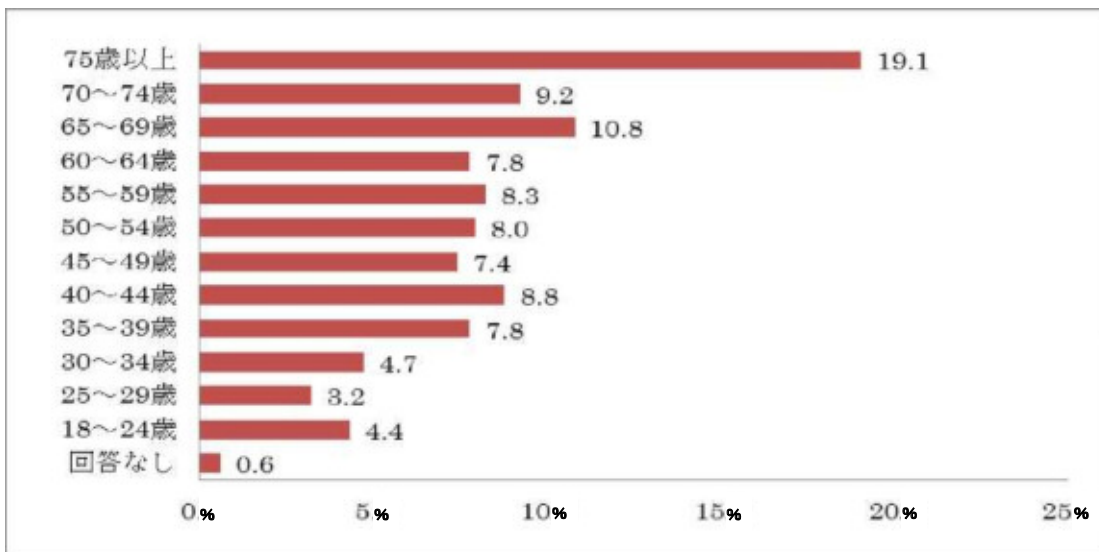
II. 調査結果

1. あなたのことについて

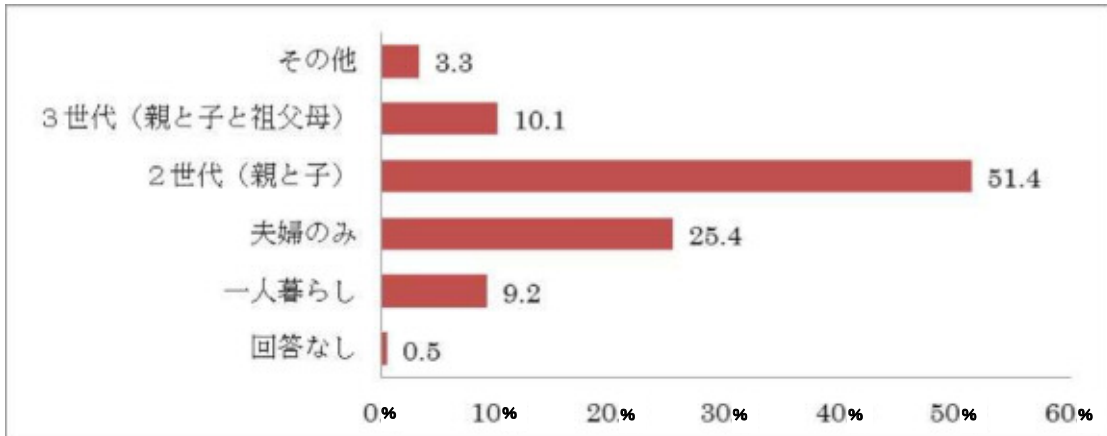
問1 性別



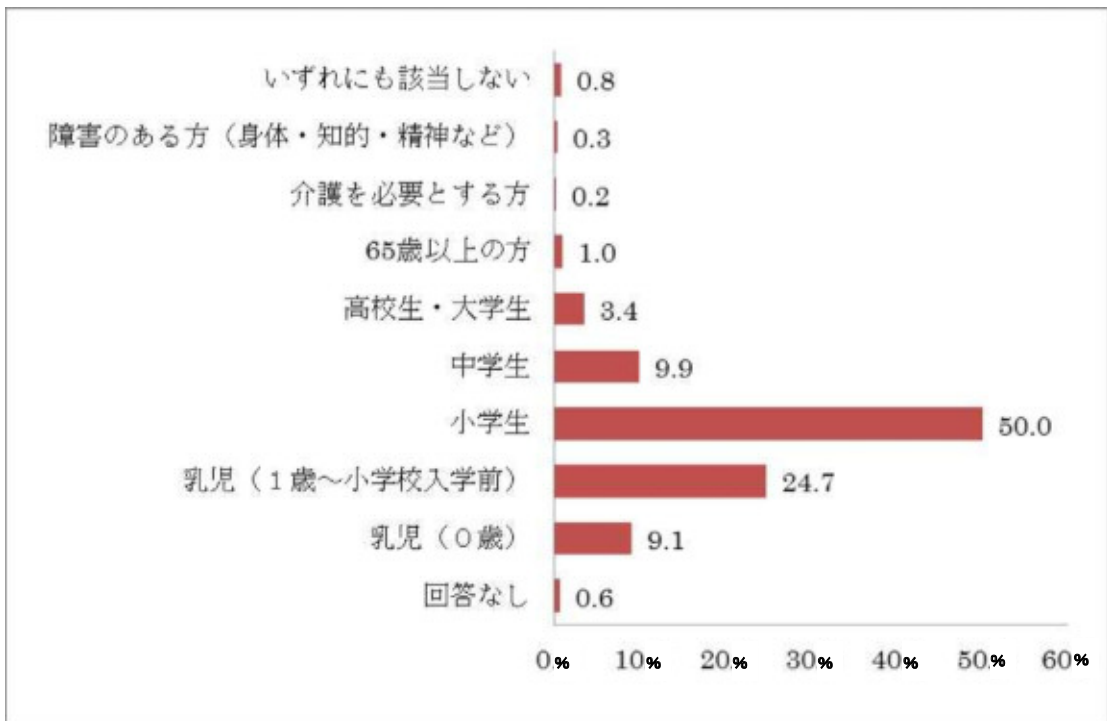
問2 年齢（平成28年4月1日現在）



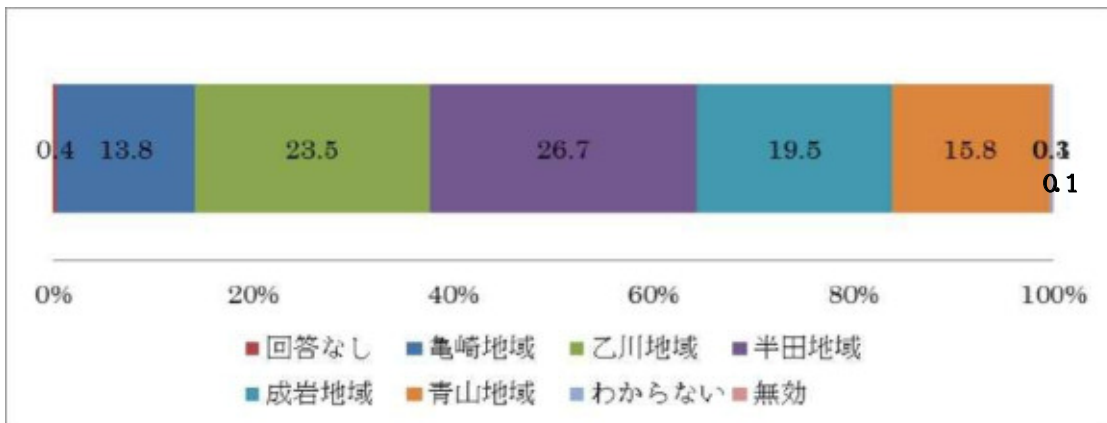
問3 現在一緒にお住いの家族構成



問4 同居している家族 (あなたを含む)

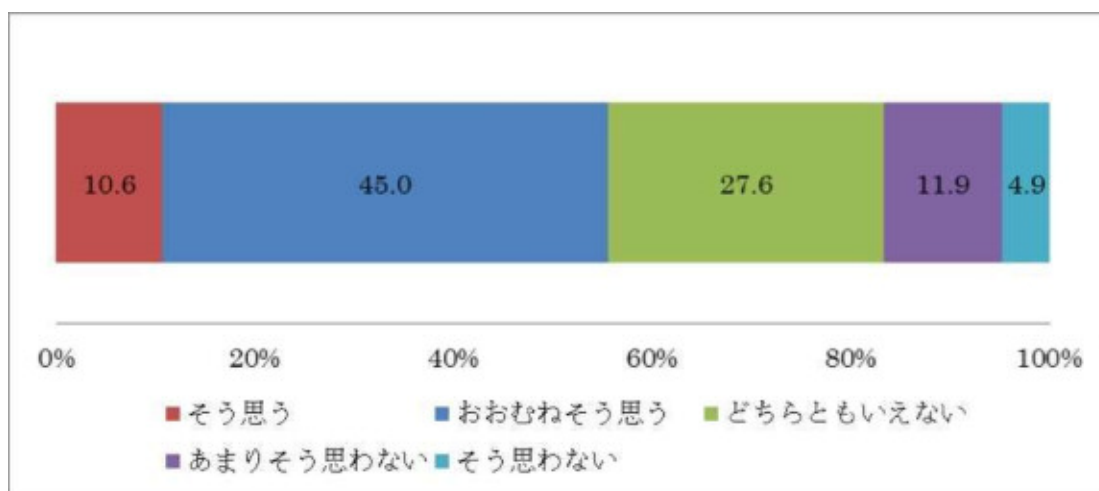


問5 現在お住まいの地域 (中学校区)

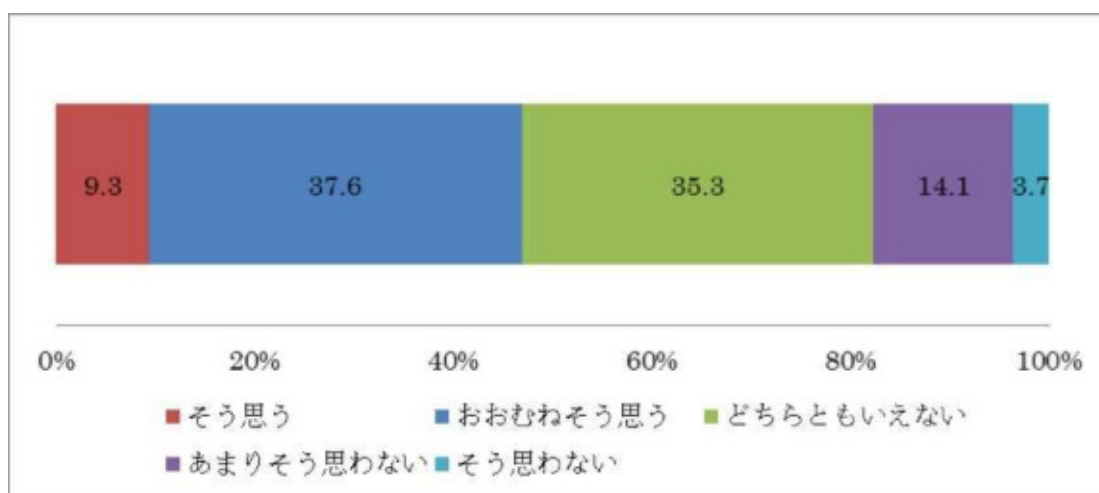


2. 市民協働について

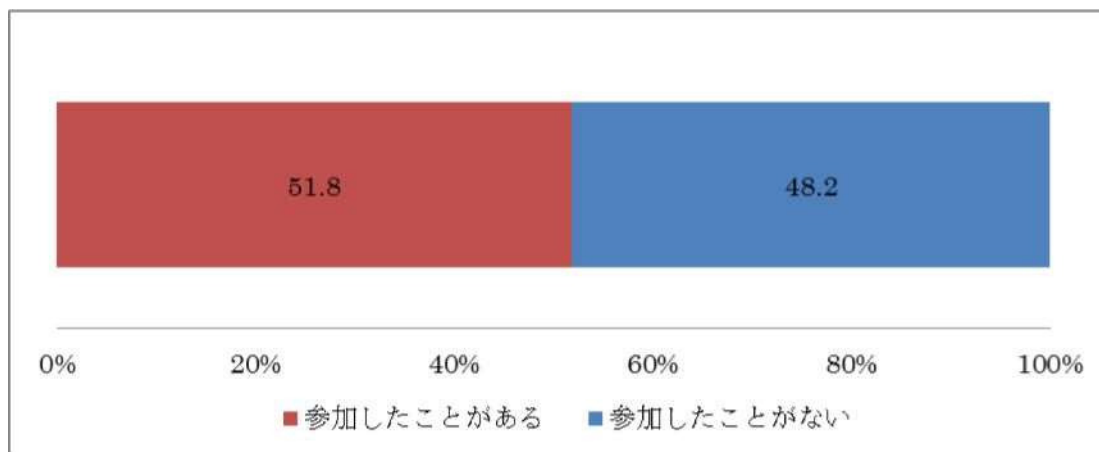
問6 あなたは、半田市の市政に関する必要な情報が提供されていると思いますか。



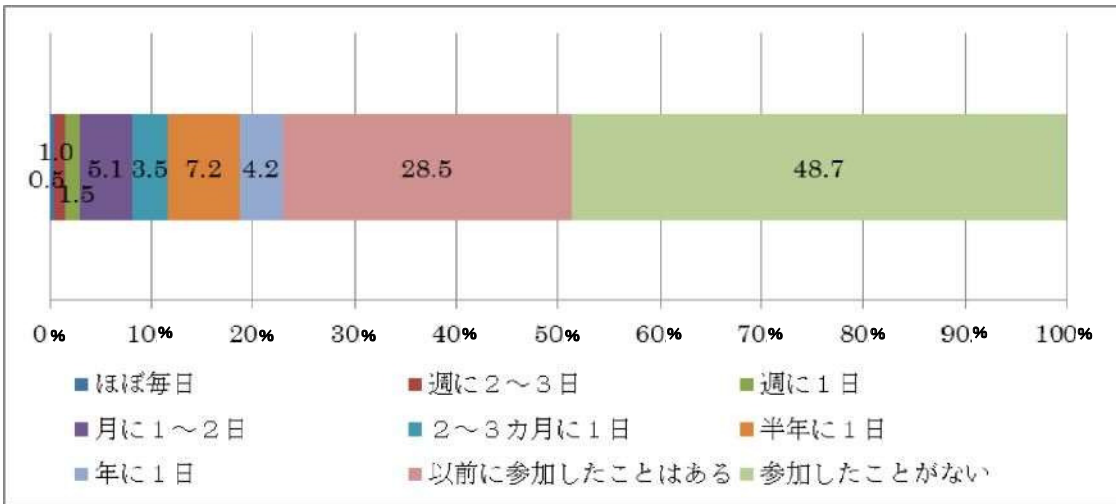
問7 あなたは、半田市は市民が中心となって協働のまちづくりが進められているまちだと思いますか。



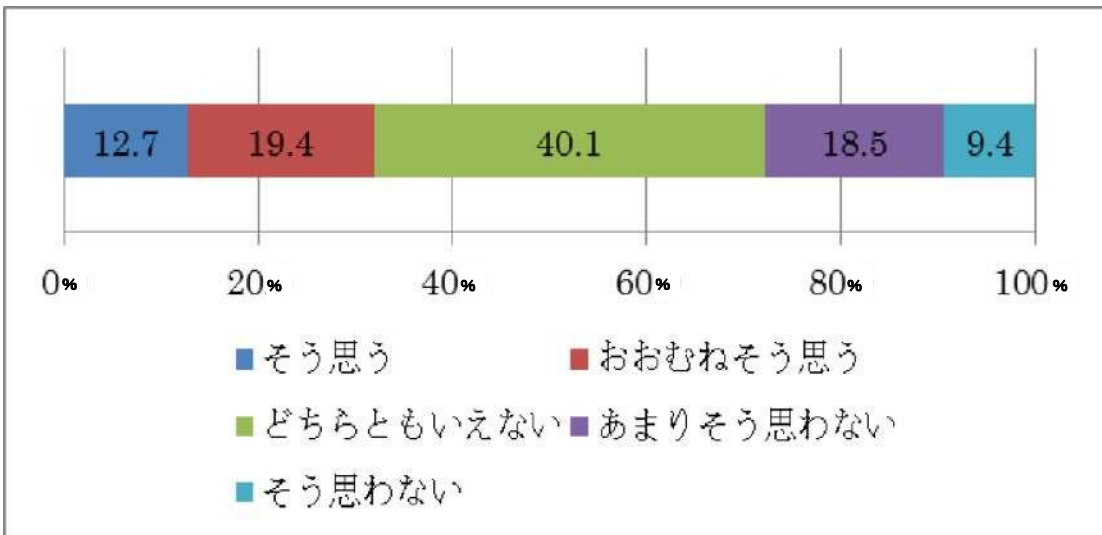
問8 あなたは、この一年間にコミュニティや自治区の活動に参加したことがありますか。



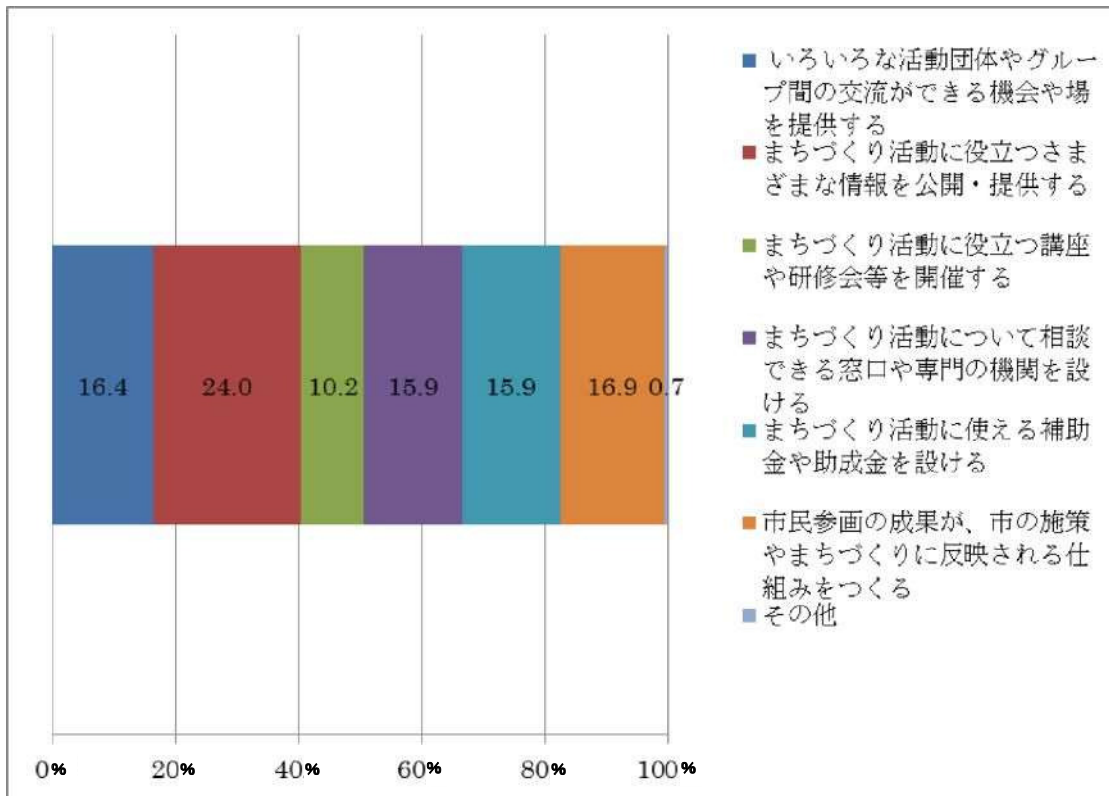
問9 あなたは、ボランティアや市民活動（コミュニティや自治区の活動を除く）にどのくらい参加していますか。



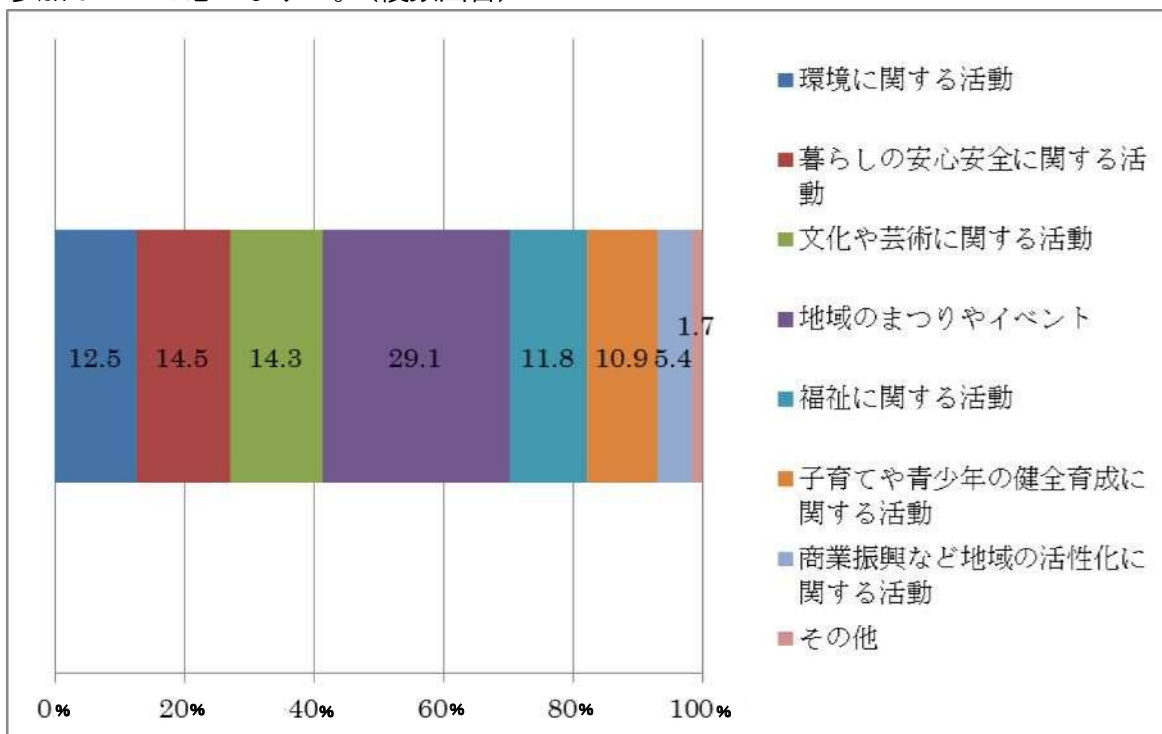
問10 あなたは、公共サービスはすべて行政が行うべきだと思いますか。



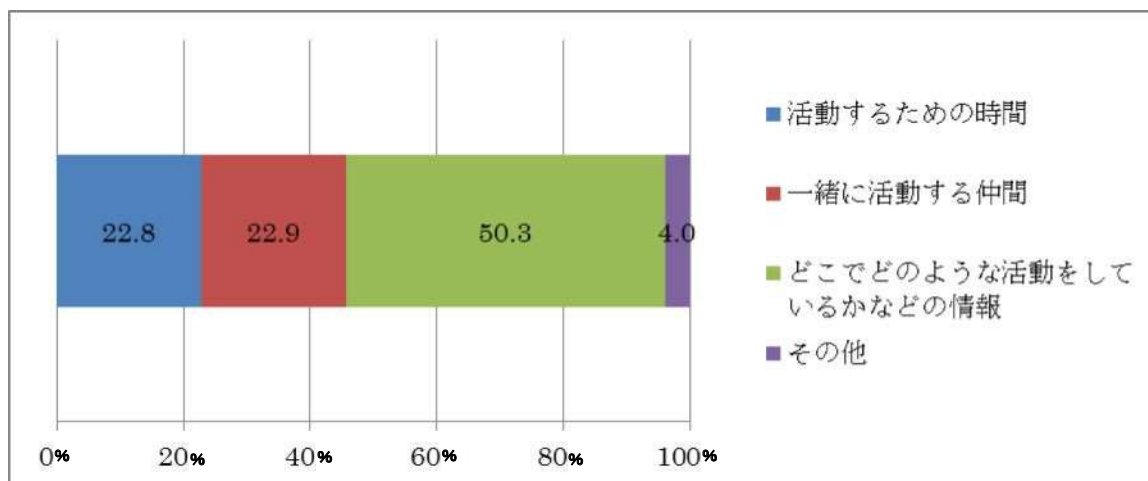
問1 1 あなたは、協働によるまちづくりを進めるために、行政は具体的にどのようなことをすればよいと思いますか。（複数回答）



問1 2 あなたは、次のような活動に参加したことがありますか。または、今後、参加したいと思いますか。（複数回答）



問1 3 あなたが、今後（さらに）活動に参加するために何が必要だと思いますか。
※問1 2の活動などに必要だと思うものに○をお願いします。



■半田市市民協働推進計画改訂検討会議委員名簿

役 職	氏 名	所属団体等	備 考
委員長	千頭 聡	日本福祉大学国際福祉開発学部教授	市民協働推進計画策定委員会 委員長
委 員	小栗 吉昭	半田市区長連絡協議会	
委 員	松見 直美	特定非営利活動法人半田市観光協会事務局長	市民協働推進計画策定委員会 委員
委 員	辻 正幸	はんだまちづくりひろば運営委員長	
委 員	池田 美恵子	知多信用金庫企画部地域貢献課長	
委 員	水野 節	半田市社会福祉協議会事務局長	
事務局	加藤 明弘	市民協働課長	
	三輪 象太郎 (水野 恵子)	市民協働課主幹	
	藤井 寿芳	市民協働課副主幹	

() 内は前任者



半田市市民協働推進計画【改訂版】
「みんなでいっしょに大作戦」

発行／半田市
編集／半田市企画部市民協働課
〒475-8666 愛知県半田市東洋町二丁目1番地
電話 0569-21-3111（代表）
<http://www.city.handa.lg.jp/>